

問13 下線部②について、次の＜資料3＞は渋沢栄一による『論語と算盤』の一部を、現代語に訳したものです。これを読んで、後の設問に答えなさい。

＜資料3＞

有るものと無いものをお互いに融通し合うというのは、数千年前から言い尽くされた経済上の原則であって、この大原則に反しては経済の発展は計画できるはずがありません。例えば佐渡からは(a)が算出され、越後からは米が生産されます。台湾からは砂糖が生産されるし、関東地方からは(b)が生産されます。さらに国際間に拡大してみると、アメリカの小麦、インドの綿花のように、それぞれ土地によってその産物は違ってくるのですから、われわれはアメリカの小麦粉を食べ、インドの綿花を買い、そして我が国は(b)や綿糸を売っていくべきでしょう。この点は特に注意して、我が国に適する物を作り、適さない物を仕入れるということを間違えないようにしなければなりません。